

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100445		
法人名	有限会社 風		
事業所名	グループホーム「シュアー」		
所在地	岐阜県多治見市東栄町1-35-1		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	平成25年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2171100445-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南瀬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成25年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ静かな環境の中で、地域の方々に支えられながら、移転して5年が経ちました。ホーム内は「いつも清潔に」を目標に、過ごしやすい環境づくりに力を入れています。四季を通じて、庭や居室から見えるフラワーボックスに花を育てています。植物を利用者と共に育て、ゆっくり毎日が過ぎている、そんなホームです。5月には庭に東屋が完成。日差しの強い日でも、ベンチに座り、お茶を飲みながら、育てている野菜、花を眺めて過ごしています。終末期の取り組みも家族、主治医、職員で連携を図りながら、可能な限り、本人の希望に沿うような支援を行なっています。常に介護知識・技術向上を目指し、積極的に研修に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流を大切に、『“ゆっくり・楽しく・一緒に”を合言葉に支援する』を理念に、職員一丸となって取り組んでいる。入居者が安心して生活を送れるように介護計画にセンター方式を導入し、入居者と家族の思いを十分取り入れた介護計画を立案して、3ヶ月ごとに見直しを行っている。スタッフ一人ひとりの問題提起に対し、検討・実践・評価を行いケアに取り入れており、サービスの向上につながっている。また事業所のもっとできるという前向きな姿勢は、職員が地域ボランティアとして他施設の草ひきに出かけるなど、地域に根付いた活動に繋がっている。今年度から市の主催するグループホーム会議が開催されるようになり、グループホーム間の情報交換や意見交換を行っている。また他の老人福祉関連施設等とのネットワークづくりに取り組んでおり、より地域に浸透するホームを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関をはじめホーム内に理念の言葉が書かれており、会議、打合せ、施設内研修等で常に確認し、現場でも生かすことを徹底している。	事業所の中に掲げている理念は、職員一同の目指す方向を常に確認するものとなっている。管理者は徹底できるように、気づいたときはその場で指摘して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で行なう行事、ボランティア訪問、季節行事、日常生活の中で、近隣に声を掛け遊びに来てもらっている。	毎月地域ボランティアが来訪しカラオケ、民謡、フラダンス等が披露され、利用者の楽しみとなっている。事業所内で医師による医療に関する講和が開催される時には、地域の方々にも声を掛けて参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個別に職員が相談を受けたりすると、その内容について施設内で検討し、介護技術、知識等を分かり易く伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者と共に介護職員も交代で参加し、各方面の参加者の声を直接聞くことで、サービスの質の向上に役立っている。	地域の自治会、老人会、家族等から積極的な参加があり、意見ももらえている。浴室リフト設置について、現場の声や実際に体験して検討してはどうかという意見があり、導入している事業所に出かけたことがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度から始まった、市のグループホーム会議、市のサービスネットワーク会議に出席し、新しい情報の理解や他事業所とのネットワーク作りに努めている。今年度から認定調査員として月に1~2回活動している。	市のグループホーム会議ができ、グループホーム間の情報交換や意見交換を行っている。また他の老人福祉関連施設等ともネットワーク作りをして、サービス向上への取り組みを始めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や朝の申し送り、ショートカンファレンスにおいて話し合いを行なっている。安易に外出の制限を行なってはいけない事、反面、危険の回避という点も重要であり、現場の判断で外出の機会を設ける工夫をしている。	毎年身体拘束についての研修を実施し、拘束をしないケアの取り組みをしている。玄関の施錠についても、利用者の状況を見ながら外出を見守るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新しい職員には入社時の研修を行なっている。新聞記事、雑誌等のニュースに職員全員が目を通し、話し合いのきっかけ作りとしている。毎年文書研修を行なっている。内容について随時質問を受け、虐待防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内研修で学んでいる。新しい職員には研修計画の中で実施している。今年も6月に文書研修を行なった。経験の少ない職員には直接講義を行なった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書類を契約者の前で管理者が声に出して読み、その都度詳しく説明し、疑問点を尋ねたりして、その場で答えるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある意見箱、伝言ノートを通じて、意見交換や家族の要望を日常に反映させている。伝言ノートへは気付いた職員が記入している。面会時には、職員から声を掛け、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	意見箱や伝言ノートを用意し、家族が話しやすい雰囲気を作るよう努力している。家族から職員の対応について意見をもらった時には接遇研修を開催する等、意見を活かす取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ショートカンファレンスや朝の申し送り、休憩室の意見箱を通して、職員が声を上げやすいよう工夫し、改善に努めている。提案や意見は内容により、当日、週単位、月単位で対応し、サービス内容の充実に生かしている。	意見箱を設置したり職員が意見を出しやすい雰囲気づくりをし、出された意見や提案を受け止めサービスに活かす努力をしている。職員アンケートも一人ひとりの意見や思いを大切に職員研修に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活状況を考慮し、勤務時間、休日に対応している。定年制を廃止し、希望する人は健康である限り働き続けられる仕組みとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を積極的に行なっている。管理者が個々のレベルに合わせて行なうミニ研修も随時行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会、会議には積極的に参加し、人的ネットワーク作り、勉強の機会となるよう進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に生活している場に訪問し、思いを伺い、記録に残し、スタッフ全員で共有し、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から直接お話を伺い、主治医のアドバイスを受け、その内容を家族にお伝えしている。入所当日と一週間後には生活の様子を口頭、電話、文書等で行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から別々の思いを伺い、表情や話し方から本当の思いを探れるように、五感を働かせ話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	花の水遣りや花瓶に花を生けて頂いたり、洗濯干し、食器拭き、シーツ掛け、お部屋の掃除等、スタッフと一緒にこなしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族から別々の思いを伺い、思いが一致している事は伝え、違うところは家族が本人に対して支援頂けるよう話をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、ご家族様より馴染みの場所等を伺い、ドライブや近くで外出したり、神社やスーパー、美濃焼ミュージアム、道の駅などに行き、思い出して頂けるよう心掛けています。	家族は毎日であったり2ヶ月毎には訪問がある。また母の日、誕生日にはほとんどの家族が訪問し、利用者との楽しいひと時を過ごしている。自宅や働いていた職場、神社等の馴染みの場所へ出かける支援も続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール等での利用者様の会話、関わりに耳を傾け、見守り、トラブルになりそうな時は事前に探知しえるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ボランティアで訪問して下さったり、退所後の様子を電話やホームへの訪問にて伺ったり、終末ケア後ホームに訪問して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に保証人様に家族版センター方式を記入して頂き、利用者様の今までの生活歴や家族の思い出などの把握に努め、気に掛かる事があれば、理解を得るまで思いを伝える努力をしています。	センター方式を導入して、利用者の思いや生活歴、嗜好品などを今までより詳細に把握し理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から口頭で情報を得たり、詳しく知る為に家族版センター方式を記入して頂き、一人一人に合った生活環境になるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションなどで、一人一人の素直な気持ち、今思っている事などを伺っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時やプラン変更時などに家族のお話を伺ったり、スタッフにセンター方式を年2回、紐解きシートを年1回、サービス担当者会議を年2回は必ず実施し、いろいろなスタッフの意見を取り入れています。	利用者がよりよく生活できるよう、面会時やプラン変更時に家族から情報を聞き取り、センター方式による情報を活用して現状に即したケア計画を作成し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期、長期のケアプランに沿い、実施、記録しています。些細な気付きはその場でミニカンファレンスし、工夫結果を記録しています。特別な気付きは記録します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の状況に可能な限り対応し、不満が出ないように早く対応する事を心掛けています。平等を常に考慮し、様々なニーズに対応できるよう職員一人一人が意識を高める努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習慣、行事、思い出の品、家族、親しかった友、動物等、内外部の情報を集め、安心して生活できるよう努めています。楽しみや喜びで笑顔が多く見られる計画や工夫をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の往診に加え、体調不良時には電話やファックスで相談している。往診は随時行なってもらっている。H23.12月より月3～4回歯科訪問診療を行なってもらっている。	受診は、希望されるかかりつけ医を尊重している。また歯科診療を定期的に行うことでその人に合った食事形態を検討し、経口摂取の改善に継続的に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝の申し送りやノートを通じて健康情報を伝えている。ホーム内の看護職は病院の看護師に相談し、適切に対応している。爪切り、髭剃り、足浴などを介護職と相談しながら実施、清潔ケアの徹底に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	深夜の緊急入院の時は、翌日に主治医に報告している。入院する時は、主治医に直接総合病院の医師に電話をして症状の説明を行ってもらっている。また、入院先の医療相談員さんと入院直後より連絡を取り、退院に向けての話し合いを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族の意向を聞いている。体調の回復が見込めない時は、家族と主治医、施設職員間での話し合いを何度も行ない、チームで看取りを行なっている。	職員全員が看取りを経験しており、本人・家族の意向を大切にしている。終末期ケアが万全にできるよう関連職種の連携が出来上がり、関係者で方針を共有することで職員も落ち着いて受け止められるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルがあり、職員が目を通す機会を設けている。年2回救命講習を受けている。元主治医による医療研修を不定期に行ない、知識・技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と、防災用品の確認を随時行なっている。備蓄に関しては食料、毛布以外にも日常生活に必要なものを用意している。今年2月より2回ずつ避難訓練(夜間と日中)を行なっている。	スプリンクラーも設置済みであり、地域の協力を得て毎月1日に夜間、第4土曜日に防災訓練を行っている。備蓄は賞味期限を参考にチェックしている。	自治会の消防団などの地域資源を確認し、協力が得られるような要請を検討されたい。実現できればより具体的な訓練につながると考えられるので期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の有無等を大きな声で言わないよう気を付けたり、食事でもスタッフの都合で急がせる事のないよう心掛けています。トイレ介助時は利用者さんに合わせてゆっくり耳元で説明したり、トイレ表示を読んでもらいながら説明したりしています。	排泄誘導は、大声を出さず、せかさず、利用者を尊重した対応をしている。排泄時にはトイレのドアを閉めたりトイレ専用のバスタオルを使用して、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で家族に電話したい方は、家族の了解を得て、自由にかけて頂いています。スタッフが用事で車で出かける時等に利用者さんに声掛けして望まれる方は一緒に外出して頂きます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、決まった時間に起きられない方には無理をしないで待つようにしています。庭に東屋を作り、自由に休憩してもらっています。外出希望の方はご家族に相談し、希望に添えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お部屋や押し車の中に汚物がないか確認し、声掛けして片付けさせて頂いています。着替えの時にはどれにするか選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭で野菜を育て、食材として収穫して、調理の方に渡して下さいます。野菜の皮むきやエンドウのすじとり、食前の机拭き、出来る方は食後の茶碗洗い、拭きをお手伝いして下さいます。	旬の食材を活用しての献立となっており、利用者が庭で育てた野菜も利用している。野菜の皮むき、テーブル拭きなどの参加もある。誕生日の赤飯、正月には食器を変えたりと、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食、水分を一人一人に無理のない様に適量を摂取して頂くよう介助しています。咀嚼、嚥下機能に応じた形態で提供します。利用者さんに合わせた大きさのコップや器を用意し、なるべく自力摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者さんの口腔内の状態に応じて歯ブラシ、又はスポンジブラシを使用しています。歯科医からのアドバイスに従ったケアを心がけ、苦痛や不安を与えないように配慮しています。毎晩義歯をホームで保管し、毎週日曜日に洗浄剤を使用して保管しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄方法を選んで気持ちよく日常生活を送れるよう、紙より布に変更し、時間を決めて声掛けしながら排泄の支援をしています。	トイレでの排泄を目指していて、日中は、車椅子利用あるいは自力で立つことができない方も支援している。尿意、便意がはっきりしている利用者は、声掛け誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回はヨーグルト、15時のおやつに寒天を使用した手作りおやつを提供しています。水分摂取等、食べる事により予防対応しています。個々に便秘薬を使用することもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望のある方には午前、午後のどちらに入浴したいか伺い、入浴の苦手な方にはタイミングを見て、何度も声掛けし、入浴出来なかったときは、足浴や着替えをしています。	入浴は希望に合わせて時間調整を行っている。入るのを拒む方には、他の利用者から声をかけてもらい入浴に繋がることも多い。拒否された場合は足浴等に変更している。また安心して入浴できる様リフトを活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんや体調により、午前午後により一時間程休息を取って頂く時もあります。月に一回以上は上下のシーツを洗い、布団干し、寒暖や光などの配慮にも気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量をスタッフ2人で確認し、安全な服薬の支援を行なっています。必ず飲み終わるまで見守りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望を取り入れ、満足して頂けるレクリエーションを企画実施しています。個々の残存能力に応じた役割を担って頂き、生きがいと達成感を持って頂きます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出時は、身支度、持ち物などを過不足なく準備し、楽しい外出になるようにしています。帰宅時は利用者さんの体調をチェックし、外出時の行動をご家族より伺い、記録しています。	週3回ほど近くに車で出かけ、ドライブ、買い物を楽しんでいる。家族の協力も得られ、一緒に外出する楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、ご家族からお小遣いをもらい、時々スタッフとコンビニに行き、自分で好きな物を選び支払いもされます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話できる方は番号を伝え直接掛けて頂きます。出来ない方はスタッフが代弁して本人の要望をお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に保たれるよう午前午後、夕方の一泊3回は水拭き等しています。季節に合わせた飾りや寒暖や光等に配慮し、エアコンやブラインドで調節しています。	1日3回掃除をして、生活空間の清潔保持がなされている。建物の周囲、庭も手入れが行き届いており、気持ちのよい環境づくりを心がけている。居間に射す強い日差しも植木やグリーンカーテンで和らげられ、居心地良い空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で休みたい時は自由にお部屋で休んで頂きます。天気の良い日は外に出てベンチに座り、会話されたり、一緒に体操されたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には馴染みのある家具(タンス、椅子、机、鏡、テレビ等)が置いてあり、家族の写真なども貼ってあります。エアコンが各部屋にあり、夏冬快適に過ごされています。	各居室には食後の休憩と就寝時に入るのみの利用者が多いが、馴染みの家具や小物、写真等があって一人ひとりにとって居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、お部屋には手すりを設置しています。車椅子、ポータブルトイレ、押し車を使用しています。お部屋の戸には住んでいた地名等を貼り、トイレ、浴室、台所などの場所も明確にしています。		